

ビーチバレーボール補足資料

(前述に加え、ビーチバレーボール特有の責務及び判定を付記)

『ラインジャッジの責務』

1. 試合前

(1) 服装

- ① レフェリーウェアもしくは、支給された服装(支給がない場合は、全員が揃う服装が望ましいが、揃わない場合は、同系色の服装でも可能)を着用し、運動靴と靴下を履く。
- ② サングラスの着用も可能。

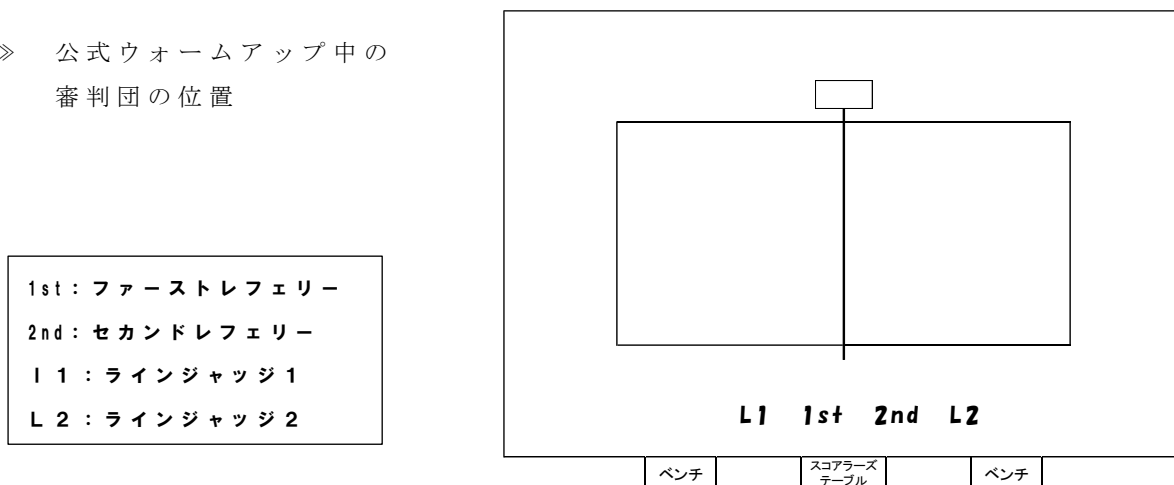
(2) 試合設定時間の20分前までに、また、前の試合が長引いた場合は、前の試合が終了する前に指定の場所に集合する。

(3) マッチプロトコール中は、スコアラーズテーブル前に整列する。
《図1参照》(4人の場合はL1・L2・ファーストレフェリー・セカンドレフェリー・L3・L4という位置で整列する。)

(4) 公式ウォームアップ終了後、ファーストレフェリーがレフェリースタンドに向かうタイミングで競技エリア内の所定の位置につく。(4人の場合は、L1・L2とL3・L4が一行に並んで所定の位置に向かう。)

(5) サンドレベラーがレーキをかけた後に、担当ライン上の砂を落とし、ラインの状態、アンテナ、サイドバンドに歪みがないか確認する。

《図1》 公式ウォームアップ中の
審判団の位置



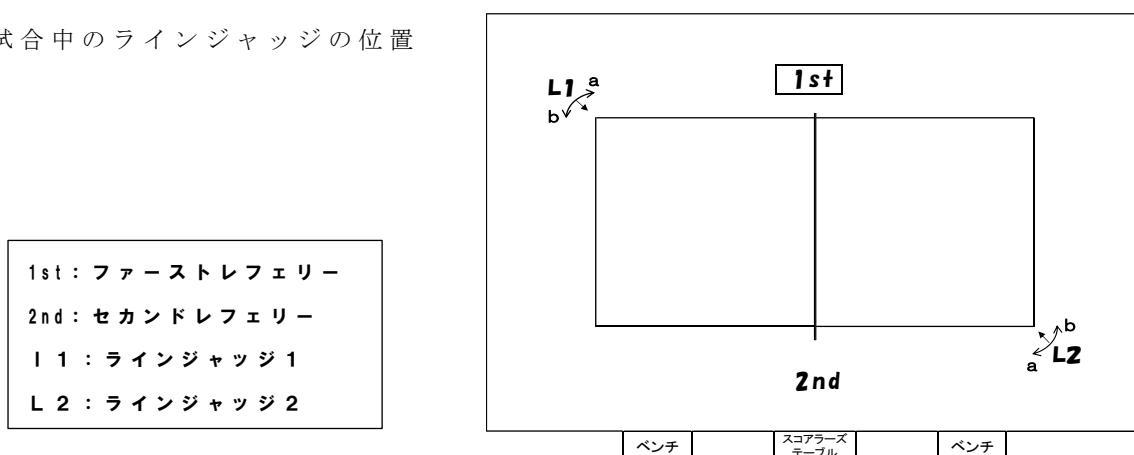
2. 試合中

(1) インプレー中のラインジャッジの位置

① ラインジャッジが2人の場合《図2参照》

- ・ファーストレフェリーとセカンドレフェリーの右側コーナーから、1 m離れた対角線の位置に立つ。
- ・それぞれ自身側のエンドラインとサイドラインの両方を判定・管理する。
- ・ボールが向かってくる方向によって、位置を変えて判定する。(左右1歩程度) エンドラインを判定するときはaへ移動し、サイドラインを判定するときはbへ移動する。
- ・自身側からの攻撃の場合には、原則としてbへ移動し、サイドラインの判定を中心に行う。
- ・自身側チームのサービスの際には、aへ移動し、フットフォルトの有無に注意する。

《図2》試合中のラインジャッジの位置



② ラインジャッジが4人の場合（6人制・9人制と同じ）

- ・自分の担当するラインの想像延長線上でコートの各コーナーから2 m離れ、ラインを身体を中心に置き、視線はライン上に置くようにしてフリーゾーン内に立つ。
- ・エンドラインはライトサイドのコーナーから「L2」・「L4」が、サイドラインはレフトサイドのコーナーから「L1」・「L3」が判定・管理する。

(2) アウトオブプレー中や試合中断中の位置や動き

- ・ラリー終了時には、担当ラインの歪みやラインにかかる砂の凸凹を確認し、必要に応じて素早くライン及び砂の状態を修正する。



- ・風でラインが揺れる場合，ラリー終了時に，まずライン上から（状況に応じてライン下を）足で左右にスライドして，ラインと砂（地面）との凸凹を少なくする。それでも揺れが収まらない場合には，ライン上にこぶし大の砂山を作りラインの揺れを止める。
- ・タイムアウトやT T O，セット間は，サイドライン後方のフリーゾーン際まで（ラインの歪み等を確認しながら）コート側を向いた状態で下がり，自然体でリラックスした姿勢で待つ。（広告バナーがある場合には，文字等を隠さないようバナー間に立つ）その際，フリーゾーンコーナー外側に置いてある各自の飲料にて速やかに水分補給を行って良い。
- ・サンドレベラーがライン上にレーキをかけた後は，各コーナーに移動し，2人のラインジャッジでサイドライン上，その後にそれぞれがエンドライン上の砂を落とし，ラインを真っすぐにする。4人の場合には，「L 1」と「L 4」，「L 2」と「L 3」でサイドライン上を，次いで「L 1」と「L 2」，「L 3」と「L 4」でエンドライン上の砂をそれぞれ同時に落とし，ラインを真っすぐにする。

3. 試合後

- （1）レフェリースタンドの左右（ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの外側）に整列する。
- （2）ファーストレフェリー，セカンドレフェリーの後についてスコアラーズテーブル側に戻り，フラッグをスコアラーズテーブルに置く。

『ラインジャッジの判定の仕方』

1. ラインに関する判定（ボールイン・ボールアウト）

- （1）2人の場合，イン，アウトの判定はライン正面に移動して行うことが望ましい。ボールの速度が速く，ライン付近に落下する前に正面に移動できない場合には，移動することよりも静止して判定することを優先し，イン・アウトの確認を行ってから，フラッグシグナルを行う際に，ライン正面に移動する。
- （2）ボールがラインの近くに着地し，砂が跳ね上がる場合（破裂マークのような形）は，ラインが動くことがあるが，必ずしもボールが触れたとは限りらない。
判定は，常にボールが地面に触れた時点のラインの位置に基づいて行う。
ボールがコートの地面に当たると，その形状は速度，角度，内部

圧力，砂の状態などによってボールマークは変形する。
イン / アウトに関する微妙な判断は，ボールマークプロトコールの対象となる可能性があるため，ボールマークの位置を覚えておくこと。

- (3) ボールがラインに接触してボールマークは明らかにアウトの位置にある（例：ラインが砂の上に平らでない場合）場合の正しい判定は “ボールイン” である。
- (4) ラリー中，風や選手のプレー中の動きによって正常ではない位置にラインが動いた場合，たとえ大きく曲がっていても，ボールが地面に触れた時点のラインの位置に基づいてボールイン・アウトを判定する。また，ファーストレフェリーの最終判定が終わり，選手からのボールマークプロトコールの要求が無いことを確認するまでラインの修正は行わない。
- (5) ボールマークプロトコール時は，ファーストレフェリーにラインにボールが接触したか，接触しなかったかを明確に口頭で伝え，ファーストレフェリーに確認されたらボールが落ちた位置を手の平で示す。（フラッグや人差し指で指さない。）
ファーストレフェリーが最終決定をする前に，ラインジャッジはラインに触れて（直して）はならない。
※ファーストレフェリーが最終判定をしたあと，ファーストレフェリーとアイコンタクトをとりボールマークを消す。

2. ボールコンタクトの判定

自身側チームのブロックにおけるボールコンタクト（自身側コートにボールが入る場合）は，確実に見えた場合に限りラリー中もファーストレフェリーが確認できるように（2秒程度）フラッグシグナルを示す。